

武蔵野市議会議員
フカキミの

深田貴美子

《いっぽいっぽ通信》



30年後も安心の武蔵野!

「誰ひとり取り残さず」を武蔵野市から実現する!



「誰ひとり取り残さず」持続可能な開発目標=SDGs(Sustainable Development Goals)通称「グローバル・ゴールズ」は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを楽しむことができるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。

今年、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、連日40度に迫る酷暑が続き、9月に北海道胆振東部地震、10月の台風24号の被害と、予想を遥かに超える災害に見舞われ、水道をはじめ様々なインフラの脆弱性が明らかとなりました。「地球温暖化防止」は、地球規模の喫緊の課題です。AIやIoTなどを駆使し、「ビックデータ」を活用し、「想定外を想定」し、対策・解決することも必要です。もちろん、私たちの身近な生活課題においても、これから20年、30年後に予想されるリスクや課題を回避し、解決しておくことも必要です。これからも「安心の武蔵野=持続可能な武蔵野」であるために、皆様のご理解とご判断となる情報提供と、提言をお届けします。

武蔵野市議会議員 深田貴美子

生産人口(19歳~65歳)減少!!

66%(2018年)→57%(2048年)に縮減

市の「平成30年人口推計」では、30年間で総人口は16万1786人です。約2万人も増加ですが、19歳から65歳までの「生産人口」は、年々減少し、30年後は、総人口の57%と推計されています。定年延長の制度変更は期待されますが、財政基盤の強化を図る必要があります。

将来の年齢3区分人口比率

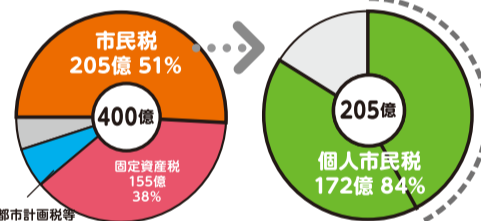
2

個人市民税の約5割

納税義務者の約1割=8,289人

(平成29年度納税義務者総数76,687人) (納税標準額700万~1,000万未満4.8%+1,000万以上6.0%)

平成29年度武蔵野市一般会計歳入決算額は、約667億円。そのうち、市税は約400億円。



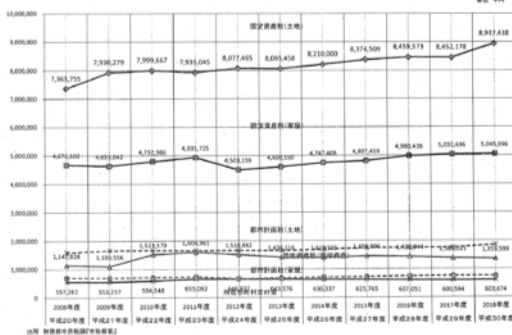
約5割が8,289人に担われている

地価公示価格

坪単価平均約307.3万円

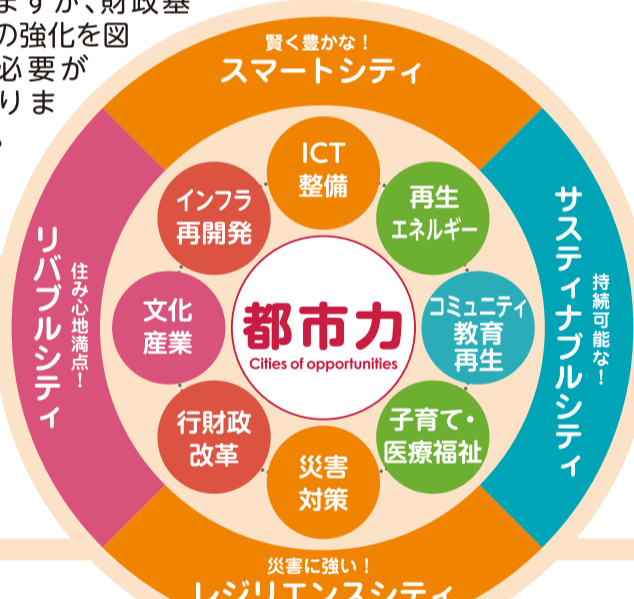
2018年3月に発表された最新の地価公示価格によれば、武蔵野市は、坪単価平均約307.3万円、全国ランキング第16位です。前年比3.81%の上昇率で、全国ランキング第21位でした。ここ10年間の土地・家屋の固定資産税の動向を追ってみました。

固定資産税・都市計画税等調定額の推移



全国的に注目されているだけの、「都市力」を目指さなければなりません。

一住むほどに、喜びと誇りを実感できるまちへ



4

414億円の基金は、虎の子!

生産人口の減少が進み、少子高齢化に対応する時代となりました。また、大規模災害や自然災害のまさかの時に備える基金は虎の子です。平成7年1月7日阪神淡路大震災で被災した「芦屋市」は、数年で216億円あった基金が底をつき、「財政非常事態宣言」のもと、行革に取り組みました。現在、財政力指数は、0.971(武蔵野市1.511)。職員・特別職(含む議員)の給与・報酬は10%~20%の減額が続いています。

視察の現場 芦屋市の被災と財政再建

復興に要した経費は、総額約2,500億円(標準財政規模の11倍)。復興のための市債は、約911億円。今年で、まる17年。当時の北村市長は、「立ち直りに20年以上かかる」と述べています。日頃、「基金の取り崩し」を訴える政党がありますが、「想定外・未曾有の危機管理欠如」の無責任な発言と言えます。

5

約3500億円超 都市基盤整備費

現在~30年後の間に、約3500億円の大規模投資が見込まれています。平成25年策定「武蔵野市公共施設白書」を基礎データとし、ファシリティマネジメントの先駆け自治体として、「PRE(自治体不動産の有効活用)」を提言し、「公共施設等総合管理計画」に反映をしてきました。しかしながら、「16%の床面積縮減(約52,800㎡)」を記述から削除し、「新たな外郭団体の増設」をうかがわせる公共施設の増設も危惧されています。

Table with 2 columns: Category and Amount. Includes Public Facility Renovation (146,375 million), Urban Infrastructure Renovation (120,617 million), Sewerage Renovation (79,687 million), Total (346,679 million).

公共施設等総合管理計画(平成29年2月)URL http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/sesaku_keikaku/kikakuseisakushitsu/1007707/1015293.html

結論

みなさまからお預かりした貴重な税金を、今後も持続可能な武蔵野市を子孫孫にまで受け伝えるために、市が今しなければならぬことは、右のとおり。

①「システム思考」の全体最適へ

「量から質へ」の行財政改革と、「部分最適」というパーツ主義から、「システム思考」の全体最適へと考え方をシフトすること。

②「バックキャスト」ビジョンの明確化

武蔵野市の将来ビジョンについて、何年先に何を達成するかを明確に設定し、そのために、今どんな手段をとるべきかを考えること。「とりあえず、今これをやっておく」というのが、一番だめです。

みなさんのご意見、ご要望をお聞かせください。

メール ippo-ippo@fukakimi.net または電話 090-8025-4457まで

武蔵野の医療と福祉・介護・看護を考える!



これで安心!

お医者様の往診はもちろん!



安心の「地域医療福祉拠点」を実現したい!

がんや難病のご本人と家族の暮らしの保健室「マギーズ東京」

7月23日(月)、江東区豊洲にある「マギーズ東京」(運営:認定NPO法人マギーズ東京)を視察させていただきました。がんになった方、またその家族や友人など、戸惑いや悲しみを話し、自分の力を取り戻すサポート拠点です。英国の「マギーズセンター」の日本版です。専門の看護師・心理士の方々が、親身に、丁寧に、お話を聞いてくださり、必要な情報を伝え、病状だけでなく、心と暮らしの支援をしてくれます。

2016年にクラウドファンディングなどの寄付に助けられて、江東区豊洲の地に、開設されました。年間6000人が訪れています。

代表の秋山正子さん(株式会社ケアーズ:看護師)のお話を伺いました。「もはや、がんは、告知される病気となったが、やはり、告知された患者は、その重さに打ちのめされる。また、小さな子どもがいる母親の場合、親の介護もある、告知をどう受け止め、子どもにどう話をしたらよいか、暮らしはどうなるのかなど、医師には相談できないことが、たくさんある」——地域包括ケアシステムの隙間に、こうした「暮らしの保健室」が必要とこのことではないかとお話しに、深く心動かされました。

雑誌の記事で知り、設立の趣旨に共感し、かねてより視察にうかがいたかった場所です。ようやく夢が叶いました。

武蔵野版「マギーズ東京」をと、心に決めました。



便秘・排便をしっかりと解決! 看護付き小規模多機能介護施設「坂町ミモザの家」



8月30日(木)に、新宿区四谷坂町にある看護小規模多機能型居宅介護サービス「坂町ミモザの家」(運営:株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション)を視察させていただきました。

地域包括ケアは、親しんだまち、住み慣れたわが家での「在宅介護・看護」が基本です。

看取りまでの道のりを、ご本人が尊厳を持って暮らせること— 家族が心強く・納得できる介護・看護のサポートを—

「坂町ミモザの家」は、家族と一緒に温かく、力強く伴走していました。例えば、胃ろうの方のお食事も、3回に2回は経口でとれるように、トロトロのお食事を念入りに作ります。また、便秘などの排泄の困難も、看護師さんが、丁寧にケアしてくださいます。介護度5の方がほとんどのご利用者ですが、ご本人が、自信をつけて帰宅されます。その姿を見て、ご家族様がどれだけ心強く励まされることでしょう。

「通ってよし」「泊まってよし」「わが家でよし」とパンフレットにある言葉が、じんと心に染み渡りました。

経営採算が取れないため、武蔵野市ではなかなか整備が進まない看護小規模多機能型居宅サービス施設です。が、利用者にとっては、高齢者入所施設より大変経済的な介護が実現します。

医師の訪問診療もセットアップすれば、さらに安心のケアが実現! 武蔵野の地域包括ケア=「地域リハビリテーション」の実現! 武蔵野版「坂町ミモザの家」を、必ず実現すると心に誓いました。



古の水路! 花の通学路

2016年、都市計画道路「武蔵野3・4・24号線」が優先整備路線となったことから、にわかに、隣接する「花の通学路」と「武蔵川公園」への影響が懸念されました。そもそも、花の通学路は、千川上水からの境村分水「用水路」だったとのこと。ならばなおのこと、武蔵野の古を後世に伝えられるよう、さらなる保全が期待されます。

「境駅前コミセン」を提言! (平成30年予算委員会)

武蔵境駅北口(境1丁目・2丁目)は、コミュニティ・センター空白エリアです。鉄道立体で南北一体となり、産学民公のまちづくりの拠点が必要です。今後子ども人口が増加するエリアだからこそ、「駅前学童保育」も複合化してはいかがでしょうか。

武蔵境 開発事務所の 利活用!



新クリーンセンターの御恩返し!

大変よくできました

二酸化炭素CO²を約5000トン削減へ! 光熱費約2億円削減実現!

新クリーンセンター「バイオマス発電」で、「地球温暖化防止」を実現!

平成23年、東日本大震災の際の「電力喪失」の教訓を踏まえ、「クリーンセンター建て替え」にあたり、「ごみを電気に」と「バイオマス発電」を、深田貴美子は、全力で提言してきました。

また、震災の際には、原発事故のため、東京電力からの電気が、供給困難となりました。その教訓を踏まえ、「ガスも導入」を力一杯提言し、「ガス・コージェネレーション」導入を実現することができました。災害時には、市役所と周辺の公共施設は、絶対停電しないことになりました。さらに、CEMS(地域エネルギーマネジメントシステム)を導入して、他の公共施設への配電(託送)も提言しました。

このたび、環境省の約10億円規模の事業である「平成30年度二酸化炭素排出抑制対策事業・公共施設等先進的CO²排出削減対策モデル事業」を獲得!

災害時の避難所でもある市内小中学校18校に、配電(託送)が実現します!

横浜市・豊田市・けいはんな・北九州市の国の四大事業をはじめ、千住水素ステーション・柏の葉・田町スマエネ等の数々の現場に学ばせていただきました。

これまでの環境部 Good Job!

医療・福祉・健康・農業・災害・安全のまちづくりへ—— 「スマートシティ」の実現へ大きな「いっぽ」!

<https://drive.google.com/file/d/1NEmzE-KUpLKXEO16AFahD4f0g9nQHFdC/view?usp=sharing>



みなさんのご意見をお聞かせください。

<http://www.fukad kimiko.info>

facebook www.facebook.com/kimiko.fukada

保護ネコの「きーちゃん」。今年で3歳になりました! 元気いっぱい育っています! 大切な命を守りたい。

